


タイ王国		首都	バンコク
 <p>トン・トライロングと呼ばれ、赤・白・青の3色の横縞で、中央の青の幅が赤と白の2倍になっている。白は国のシンボルの白象の代わりで宗教、赤は国家及び国民の団結心、青は王室の色である。</p> <p>独立：13世紀</p> <p>スコタイ王朝成立</p> <p>国連加盟：1946/12/16</p> <p>政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 51万3,000 km ² (日本の1.4倍) インドシナ半島の中央部に位置する。メナム川が南北に貫流し、流域は広大な沖積平野を形成する。北部は山地といくつかの山間盆地、西部はミャンマーとの国境山脈、東部はコラートとよばれる低平な高原、南部はシャム湾とインド洋に面するマレー半島である。
		人口	6,420万人
		言語	タイ語 (公用語)
		通貨	バーツ
		気候	全体としては熱帯モンスーン気候で、半島部は熱帯雨林気候、雨季は南西モンスーンの6～10月、乾季は北東モンスーンの11月～2月、3～5月は暑熱となる。
		民族	タイ族 80%、中国系 (華僑) 6%、マレー人 4% インド系、ベトナム系
宗教	仏教 95%、イスラム教 4%、キリスト教		
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育機関として、初等学校 (小学校に相当、6年間)、中等教育機関として、前期中等学校 (中学校に相当、3年間) 及び後期中等学校 (高等学校に相当、3年間) がある。 ・高等教育機関として大学 (4年間) が設置されている。 ・中・高校は併設がほとんどである。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ国民は法律の規定によりその子女に基礎教育を受けさせる義務を負うこととされている。 ・義務教育は満6歳～15歳までの9年間である。初等学校は満6歳～満11歳まで、前期中等学校は満12歳～15歳までである。 ・国立学校は無償、私立学校は有償である。 ・貧富の差が大きく、農村部と都市部では就学率が大きく異なっている。教育環境にも差がある。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は5月17日から翌年3月1日までとなっており、2学期制を採っている。 ・1学期は5月17日から10月1日まで、2学期は11月1日から翌年の3月1日までとなっている。 ・教育課程は、教育省が定める学習指導要領に基づき、各地 	

		<p>方基礎教育区及び各学校において編成するようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前 8 時に始まり、午後 4 時 30 分までで、昼休みは 50 分～1 時間、授業と授業の間に 10 分の休憩がある。授業の 1 単位時間は 45～60 分である。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・2000 年現在、前期中等学校進学率は 82.8%、後期中等学校（高校）進学率は 57.4%である。大学に進学する生徒が増えている。 ・前期中等学校への進学率は高いとはいえない。前期中等学校の教育課程を修了した生徒の多くは、職業に就くかあるいは職業訓練教育機関で一定期間職業訓練を受けた後に就職する。 ・生涯教育として、1～4 年生レベルの読み書きと職業技術訓練や社会に貢献するための特別訓練プログラムが提供されている。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育機関として幼稚園が置かれており、就園率は 87.7%である。 ・幼稚園からタイ語を勉強する。 ・共働き家庭では、保育園が利用されている。 ・都市部には、インターナショナルスクール（幼稚園）がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設置者は、原則として国又は公益法人等の民間団体であることから、設置者別の学校は、国立学校又は私立学校の 2 種類である。 ・都市部の富裕層が通う学校は、小学校 1 年から英語を導入し、学校施設も日本より豪華で立派である。先進国の文化を積極的に取り入れる学習があり、日本文化も大きく導入されている。
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・2 学期制をとっているため、10 月が休みになり、2 学期は 11 月上旬から 3 月中旬までなので、4 月から 5 月上旬までが学期休み（夏休み）になる。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から高校まで、学級担任が 1 人か 2 人いる。科目ごとに教科担任がいる場合もある。 ・英語はネイティブの先生が担当している学校もある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の出席率が 80%に満たない場合は、定期学力考査を受けることができないとされている。落第はまだあるが、極め

	<p>て少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び級は昔あったが、今はほとんど無い。
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の授業がある。 ・私立では、幼稚園から英語を学んでいるが、公立では、小学校1年生または5年生より始まる。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教節には、大きな祭事行事がある。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・初等中等教育段階の学校には食堂があり、給食が採用されている。昼食を持参したり、購入したりすることもできる。 ・授業中以外ならいつ食べてもよい。学食販売時間が決まっている。基本的には昼休みと放課後である。 ・午後のショート休憩に牛乳が配られる小学校もある。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まる時間と終わる時間に鳴らされる。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内では、飲食が一切禁止されている。 ・その時間の授業に関係のない話をしたり、他の授業の宿題をしたりしてはいけない。 ・先生が教室に出入りする際、生徒は、皆一斉に挨拶をする。 ・お客様とすれ違うときは、両手を合わせて挨拶をする。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から児童生徒に対し、授業の一環としての自宅における学習（宿題）が課せられる。 ・男女の別に制服（幼稚園から大学まで）が定められている。日本と同様に、学校によって色や形が違う。色は男子は茶・紺・黒、女子は紺・紫・黒などである。大学生は黒だくである。一般的には、上着は白いシャツで、下は男子がショーツ、女子はスカートである。色はほとんどの学校は黒だが、キリスト教の学校は紺である。大学は男子がショーツからズボンになる。 ・高校まではアクセサリーは禁止されている。学校によっては女子学生は金の玉状のシンプルなピアスのみ許されているところがある。 ・髪形も決められている。 ・IDカードを使って、いつ、誰が校舎を出たかがわかるようにしている学校もある。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会が1学期に2回ある。
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・5時～7時位に起床し、16時位まで学校で過ごした後、塾に行ったり、学内の特別授業を受けたり、好きなスポーツを

		したりする。それから、家に帰って、宿題、テレビ、パソコンなどをする。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ文字は、13世紀に作られ、現在では42の子音文字と32の母音文字があり、組み合わせて音が作られる。普段使っているタイ語は丁寧語と普通語があり、敬体のようなものもあるが、王様やえらいお坊さんに限定されている。 ・話す相手によって言葉遣いが異なるので、注意が必要である。 ・日本語の学習では、清音と濁音の区別がつかない、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかないことがある。
	宗教上の忌避事項	特にない。
	指による数え方 計算方法等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・指による数え方は決まっていない。親指から数える人もいれば、人差し指から数える人もいる。一般的には、両手で10まで数えられる。 ・おつりは、全部そろえてから、一度に渡す。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・米が主食で、おかずの種類が豊富で、代表的な料理は「トム・ヤム・クン」というえびのすっぱくて辛いスープである。タイ料理は辛いイメージがあるが、辛くない料理もあり、野菜炒め、肉類の炒め物、クリアスープなどがある。 ・朝食と夕食は家で食べるが、昼食は外で食べることが多い。日本のように弁当を作って学校や職場に持っていくことはほとんどない。 ・屋台があちこちに存在するので、食事の時間（3回）には、道路沿いに人があふれる。 ・ドリアン、マンゴー、ソムオー、ライチなどのフルーツをよく食べる。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・一年中、ほとんど半そでで、乾季にだけ、上着が必要になる。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とほとんど同じである。 ・「世界一の交通渋滞都市」といわれるバンコク市内の交通渋滞は凄まじく、バス、タクシー、トゥクトゥク、バイク、自転車、地下鉄などの交通機関がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ぶときは名字では呼ばず、名前で呼ぶ。 ・自分の生まれた曜日によって、お釈迦様があり、自分の生まれた曜日にお釈迦様にお祈りをする。お寺に行くと、7つ

		<p>のお釈迦様が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正式の年号は西暦ではなく、「仏暦」を採用している。西暦を仏暦に変える方法は、西暦に 543 年を加えるだけで、例えば、西暦 2008 年は仏暦 2551 年となり、略して 51 年とよぶ場合もある。日付の書き方は、日本とは逆で、「日月年」と書く。 ・男性は一生に一度は仏門に入る慣習がある。10 歳前後の少年僧が托鉢をして歩く行列を見かけることがある。 ・山岳部には、いろいろな少数民族が住んでいる。少数民族だけの学校もあり、小学校から帰宅すると飼っている豚の世話をしたり、畑仕事を手伝ったりしている。 ・じゃんけんは「パオ イン チュブ」といい、日本と同じようにハンマー（コーン）とはさみ（ガンガライ）と紙（グラダード）で勝負する。ハンマーははさみに勝って、はさみは紙に勝って、紙はハンマーに勝つ。掛け声は「ヤン イン ヤオ パカ パオ イン チュップ」です。 ・日本に対する関心が高く、音楽（Jポップ）、アニメ、特に漫画の人気が高い。
--	--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・在京タイ王国大使館ホームページ・・・・・・・・タイ王国大使館
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・タイの子どもたちの学校・家庭・暮らし（ハローワールド）・・・・学研
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・海外日本人学校勤務経験教員より（2名）
- ・留学生より